

京都府総合計画(その他)

パブリックコメント(要旨)	意見に対する京都府の考え方
カタカナの造語が使われているが、わかりにくいのではないか。	御意見を踏まえ、最終案の策定後には、子どもから高齢者までわかりやすい冊子や漫画、動画等を作成するとともに、インターネットや、イベント、出前講座等により府民の皆様への普及活動を行います。
外国人にもわかりやすい、簡単な日本語を使用してはどうか。	
分量を絞る、新規と既存事業を明確にする、時系列を示す、レイアウトを工夫する、データや図、写真を使うなどして、子どもから高齢者まで、わかりやすい計画にしてほしい。	
人々に認知してもらわなければ計画として無意味なので、インターネットやSNS、駅の広告など、幅広い世代に向けて情報発信し、認知してもらう工夫をすべき。	
計画の内容が府民目線ではなく、行政のための行政による計画となっている。こんな計画のために貴重な税金を使って欲しくない。	
南北の格差解消のため、京都府庁をもっと北に移転してはどうか。	御意見を真摯に受け止め、計画の推進に当たっては、府民の皆様にご理解いただけるよう丁寧な対応に努めてまいりたいと考えています。
京都だけ良くなれば良いという印象を受けたので、他の地域とも協力して取り組んでいったら良いのではないか。	庁舎の移転については現時点では難しいと考えていますが、平成31年3月に策定した行財政改革プランでは、広域振興局長等への更なる権限委譲による現場主義の確立について記載しています。また、本庁組織については、平成29年4月に港湾局を舞鶴市内に設置したことに加え、今後も、本庁組織を現地化することで、現地現場における企画部門と執行部門の一体化によってより質の高い行政運営が期待できる部門については、現地化を進めたいと考えています。
	御指摘のように、京都のみならず、国や近隣の都道府県等とも連携し、本計画の推進に努め、京都以外も含めた地域全体の振興につなげたいと考えています。